目次

時局に當面して諸氏の發憤を望む……佐藤皐藏
國家の興隆と佛法の興隆……本多日生
罷睡錄……山根日東
法華經要文講義……本多日生
日蓮主義より見たる無量義經……井村日成
記事報導……

第廿八年拾貳月號

本多日生猊下施本用著書一覽

○法華經自我偈講義　拾部　特價　金貳拾錢
○法華經要文　拾部　特價　上製金壹圓（送料共）　金參拾錢　金五拾錢
○教育勅語と思想問題　拾部　特價　金貳拾錢　金壹圓（送料共）
○佛教の大要　參拾部　特價　金五錢
○うゐの奥山今日こえて　拾部　特價　金壹圓（送料共）　金貳拾錢
佐藤海軍中將著
○此の際に於る吾人の覺悟　拾部　特價　金壹圓廿錢（送料共）　金拾貳錢

右講讀希望者は左記へ申込んで下さい　拾貳部　特價　金壹圓（送料共）　以上各送料一部金貳錢

名古屋市東區田代町城山

統一編輯局

國電話東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

統一定價		
一ヶ年	半ヶ年	一部
金貳圓貳拾錢	金壹圓貳拾錢	金貳拾錢
送料共	送料共	送料五厘
之	金	前

統一廣告料		
四分一頁	半頁	一頁
金五圓	金九圓	金拾五圓
事之	金	前

社告

年賀廣告を取扱ひます

大正四年一月一日發行の統一誌上に我徒同志の賀詞を連載して已人賀狀の贈答を省略してはいかゞですか

特に本誌を御利用相成る事を御勸めいたします

申込期日　十二月十五日限り

申込所　名古屋市東區田城町　統一編輯局
東京府荏原郡品川町眞了院　大森日榮

料金　五號活字三行分金五十錢他はこれに準ず（料金は前納の外取扱はず）

大正十三年十月十七日印刷納本
大正十三年十一月一日發行（第三百五十六號）

東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地
編輯兼發行人　國友日斌
印刷人　鈴木日雄
印刷所　三益社
東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地
發行所　統一發行所
振替東京五一〇七一番
名古屋市東區田代町字城山七十七番地
編輯所　統一編輯局
電話東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

不許複製

大僧正本多日生師著

うゐの奥山今日こえて

一部定價金貳拾錢　郵稅金貳錢
施本用特價拾部金壹圓貳拾錢（送料共）

いろは四十八文字、そこに如何の宗教を藏し、そこに如何の哲學を含める、如來一代五十年の設化八萬四千の法門は、簡約せられて四十八文字に有り、東洋六千年の文化は醇醸せられていろは歌に存す。

本書は宗教界の權威本多日生師によつて、眞の人間觀、眞の生死觀、眞の解脫、眞の信仰、眞の道德を講說せられたるもの、釋尊の敎に依つて光あり力ある人生の行路を進まんとする者は、必ず精讀せよ。

顯本法華宗管長本多日生猊下序
統合宗學林高等部長井村日威著

日蓮聖人の宗旨

正價　布裝金參圓
紙製金貳圓
郵便書留小包　拾八錢

大僧正本多日生猊下著

法華經自我偈講義

一部　金貳拾錢　送料　金貳錢
拾部　金壹圓（送料共）

發行所　名古屋市東區田代町城山
統一編輯局
電話東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

統一

時局に當面して諸氏の發憤を望む

海軍中將　佐藤皐藏

今度米國に於て排日法案が通過しまして、吾々日本人が非常なる迫害を受け非常なる排斥を受け、非常なる侮辱を受けたといふことは、諸君と共に甚だ憤慨に堪へない次第であります。その此に至つたといふものは決して一朝一夕の事ではありませぬ、明治三十九年に桑港に於て學童問題が起つて以來、數回乃至數十回に亘つて順々にこの問題が激しくなつて來たのでありまして、日本が一歩退けば向ふは一歩進み、さうしてだん〳〵に排斥をされて終に今日に至つた次第であります。

斯ういふやうな事になつた原因といふものは、固より外交當局者の失態もありませう、併ながら人を責める前に先づ吾々自身が之を内に省みなければならないと私は信ずるのであります。一體今日の外交といふものは昔の蘇秦張儀の時代と違ひまして、決して權謀術策や駆引等に依つて成功するものではないのであります。外交は力であります、吾々軍人が外交が力であると言つたならば、單純に武力のみを力と言ふかとお思ひになりませうけれども、そればかりではありませぬ。固より外交の背後に立つものは武力は非常な有力なる所の

要素であります、是と同時に經濟力、富の力も要素であります、併ながら武力、經濟力のみならず、或はこれ以上に力になるものは何であるかといひますれば、國民の一致團結の力、即ち國論を背景とするところの力であります。即ちこの際國民外交の必要を唱へるのはこの所以であります。

これ等の實例を一々擧げることは煩に堪へませんけれども、二三の例を擧げて見ますといふと、彼の世界各國が集まつて締結したる所のヴエルサイユ條約の條項に反して、伊太利がヒューメに於て非常なる利權を得て、これを美事に解決をしたといふのは何であるかといへば、伊太利國民の一致團結したる所の輿論を背景として、さうしてダヌンチオなる怪傑が斷然たる處理を執つたその賜ものであります。又世界列國が無理に押つけて土耳其を壓迫して、小亞細亞に於て多大の領土を土耳其から奪ひ去つた、之を憤慨してケマル・パシャなる者が起つて、土耳其人民の團結したる所の力を背景としてさうして希臘人を逐拂つて、元のスミルナ附近に於ける舊領土を恢復したといふのは、やはり土耳其人民の國論の力であります。近くは之を華盛頓會議に鑑みて見たならば、海軍の軍備制限は行ひましたけれども陸軍の軍備制限といふものは行はれなかつたのであります、これは何であるかといへば、その折衝に當つたところの佛蘭西のブリアンなる人の力にも依りますけれども、陸軍の制限とめふものは佛蘭西はどうしてもやつてはいけないといふ佛蘭西の輿論を背景として、ブリアンなる人は折衝したのであります。又同じ會議に於て大きな艦の制限は行はれましたけれども、潜水艦の制限は行はれない、これは何であるかといへば、同じく佛蘭西のルーボンといふ人が佛蘭西の國論を背景として、潜水艦の制限といふ事に向つては極力反對をした、その結果であります。國論を背景として、それに依つて外交の折衝に當る人は力を得るのであります。又運動の方法の善惡は別としまして、支那が着々として日本の利權を奪ひ、日本の勢力を支那から驅逐しつゝあるといふのは何でありますか、これはやはり支那の國論を背景として、學生その他町人などは日貨の排斥とかいろ〳〵な事をして、さうして日本の勢力を驅逐しつゝあるのであります。

之に反して日本が亞米利加に對する態度はどうであつたかといふことを回想して見たならば、思ひ半ばに過ぎる事があるであらうと考へるのであります。亞米利加が日本人を排斥したといふことになると、その當時は如何にも憤慨もし激昂もします、併ながら所謂人の噂の七十五日も經たない内に直ぐ忘れてしまつて、國論も何も沈衰してしまふのであります。さうして居る所に亞米利加崇拜者流は、一時的の氣休めの事を言つて國民を過るのであります。例へば一番初めにカリフオルニア洲に於て日本人の勞働者を排斥した際にはどういふ事を言つたかといへば、あれは太平洋沿岸、殊にカリフオルニア洲に於ける勞働者の運動であつて、亞米利加全體からすれば齒牙に掛けるに足りないものである、斯ういふ事を言つて日本人に聞かして、日本の輿論を誤つたのであります。モウ少し強くなつて來るとどういふ事を言つたかといへば、これは太平洋沿岸の煽動的の政治家が政治運動に利用した爲めである、亞米利加全般の輿論といふものはそんなものではない、これは極くこの頃まで言つて居つた事であります。更に又今度の事件になつてから亞米利加の兩院を排日案が通過した、さういふ通知のあつてからまで、まだ頼みにならない事を頼みにする、即ち大統領が拒否するであらう、さういふ頼みにならない事を頼みにして慰めて居つたのであります。これは誰がさういふ事を言ふかといへば、所謂亞米利加崇拜者流がさういふ事を言つて國民を誤つたのであります。

斯樣な次第でいつでも運動は徹底を缺いて、さうして機會を失して居つた譯であります。此の事に就ては吾々は氣休めは大敵であるといふことを覺悟しなければならないのであります。それのみならず尙ほ今日に於ても國論のやかましくなる事を以て、これはどうも亞米利加の感情を激せしむるものである、どうかして之を冷却し鎭壓せしめようといふことに努めて居る人が、まだ今でもあるからして、之に向つては大いに警戒しなければならない事だと私は信じます。斯ういふやうな弱味が多いからして、つまり亞米利加人は日本を見縊るのである、犬の喧嘩でも同じことです、片方の犬が尻尾を下げて逃げれば、どんな弱い犬でも後から追かけて來ます。吾々大國の國民としてそんな態度を執つてはいけないと私は強く信じて居る次第であります。

然らば亞米利加の排日問題といふものはこれで終つてしまふか、この程度に終るかと言つたならば、まだ〳〵終りさうもない、それは何であるかといへば、今日既にその運動が頭を出して居るのであります。亞米利加の憲法までも修正をして、徹底的に日本人を排斥しようと考へて居る者があるのであります、亞米利加の憲法に依れば、國籍人種の如何に拘らず亞米利加に生れた者は亞米利加人たることを得るといふ事が、明に規定してあるのであります。然るに今度はその憲法までも修正して、歸化權を有せざる所の父母から生れた子供は、假令亞米利加で生れても亞米利加の市民たることを得ない、斯ういふ法律を作らうとして、その案が既に或る部分に提示されて居るのであります。

一體私共に日本人の思想はどういふものであるかといふ事を、少し考へる必要があると思ひます。諺といふものはその國の人の思想をよく現すものと思ひます、又人間の思想といふものはその諺に依つて誘導されて行くものと思ひます。それで色々日本の外交に關するやうな諺を調べて見ますといふと、私は抽象的に言ふつもりでなしに色々考へて調べて見たのであります。私は寡聞でありますから良い諺は出て來ないかも知れんけれども、どうも外交に關する諺が非常に惡い、先づ『負けるは勝つ』といふ事がある、勝負事をするのに負けて何處に勝があります。それから『泣く子と地頭には敵はない』といふ事がある、これは弱い者にも負ける、強い者にも負けるといふ事である、そんな根性で何處へ行つて勝てますか。それからモウ一つは『長いものには卷かれろ』といふ諺があります、これも強い者には負けろといふ意味であらうと思ひます。これも甚だ怪しからぬ事と思ひますが、この長いものには卷かれろといふ言葉に就ては、私は一つの活路を發見したいと思ふのであります。蛇が餌物を食ふ時にはキューッと卷きついてそれを締め殺して、それから呑むといふ事であります、そこで吾々は蛙となつて蛇に卷き殺されて蛇の腹中に葬られるか、或は矮となつて強い羽ばたきをして蛇を寸斷してそれを食つてしまふか、これは吾々の覺悟如何に在るのであります。それ故に吾々は臥薪嘗膽して自分の實力を練つて、一旦緩急あつたならば瞬然として起つて、さうして横暴なる所の毒蛇を切り殺して之を食てしまはうではありませんか。

先程も申しました通りに、今は排日問題に直面して居るのでありますから、國論は相當に奮起して居ります。それで公開の席等に至るといふと、強い論といふものは何處へ行つても歓迎をされます。併ながら諸君、蔭に入つて御覽なさい、なか〳〵さういふものではありませぬ、中にはこの問題は唯だ國家の體面上の問題である、實利上には大したことはない、今そんな事を言つて騒いだ所で仕方がない、それだから暫く忍んで平和的に日米貿易の發展を圖つた方が宜い、斯ういふやうな事を言つて居る者は澤山あります。

今日の疲弊したる所の經濟界に於ては、さういふ議論といふものは蔭に廻るといふと歡迎され勝ちなのであります。而も殘念ながら日本人は熱し易い代りに冷め易い、少し熱が冷めるといふとこの說が頭を持ち上げるといふことは、甚だ心配に堪えないのであります。若し此の際に方つてまで尙ほ軟化して、斯ういふ說が頭を上げるのみならず勢力を得るやうになつたならばどうなりますか、吾々は蛙となつて蛇の腹中に葬られることになつてしまひます。これは深く吾々が考へなければならない事と思ふのであります。吾々は日本帝國といふものは世界に冠絕して居るところの國體を有して居る、さういふ所の誇を持つて居ります、又さういふ信念は有つて居ります、その信念の下に特殊の文化を有して向上發展して來たのであります。その誇を有つて居るところの國民、而も文明の程度の是までに進んだところの國民を、劣等人種だといつて燒判を額に燒つける、さういふやうな事をされて、これは唯だ體面の問題である、利益には大した關係が無いといつて默つて居られますか。

又之は實際の利益には大して關係が無いといふ事、これも間違ひであります。之も亞米利加崇拜者の言ふ事であります。亞米利加の眞似をして排日問題を出さうとして居る國は多々あるではありませんか、伯剌西爾に於て然り、加奈陀に於て然り、若し吾々が今度の事に默つて屈辱を甘受して居つたならば、それこそ到る處に排日問題が起つて、さうして吾々は浮ぶ瀨が無いやうになるだらうと思ふのであります。

吾々がこの有色人種間に信望を有つて居るのは何であるかといへば、日本帝國は世界の最强國の一つになつて、さうして歐羅巴人種からも尊敬されて居るといふことが、日本が有色人種からも信望を受けて居る所以であります。又有色人種間には、吾々を信望すると同時に吾々を指導者として向上發展しよう、さうすれば吾々と日本と同樣に他の國から輕蔑されないやうに、他の國と同等の交際が出來るやうになるといふ、それだけの向上心を以て彼等が切々として努めて居る次第であります。然るに若し日本が屈服してしまつたならばどうなりませうか、日本としては有色人種の信望を失ひます、又有色人種といふものはその希望を失ひます、即ち向上發展を妨げられて、世界十一億の有色人種は永く七億以內の白色人種の脚下に踏みつけられることになるのであります。吾々は有色人種の先覺者として、それだけの事は責任を有つて居るからして能く考へなければならない事であります。

吾々は又我が國家の先祖以來の建國の精神に就て考へる必要があるのであります。我が建國の理想といふものはどういふものであるかといへば、包容海の如く淸濁併せ呑む、而してどんなものでも同化して自分のものにする、さういふやうな大きな包容力がある。隨つて吾々の建國の精神には、人種的偏見とかそんな小ぽけな考は少しも無かつたのであります。それであるからして思想のやうなものでも、支那からも這入つて來る、印度からも這入つて來る、何でも外來のものを受入れてそれを同化し、それを以て血となし肉となしてさうして吾々の文化を進めて來たのであります。尤も世の中にはいつでも淸水には汚流といふものがあるのであります、德川幕府の時代の如く鎖國主義などを執つたのはこれは脫線的のことであります。けれども明治大帝の御代になつてから、明治大帝は古來の理想に立戻られて、さうして思ひ切つて外國の文明を取入れ、これに依つて吾々が向上發展して今日に至つたのであります。斯ういふ風に日本が國力は增進し、文明の程度は進み、實力があるやうになつた爲めに、人種的偏見のひどい所の歐米各國の白人間に列しても、最

強國の一として尊敬を受けて居つた譯であります。それで私は考へる、この有色人種の間に大和民族のやうな民族を置かれ、さうして今から五六十年前の時代に於て明治大帝のやうなあゝいふ指導者を日本國にお產み下されたといふのは、これは我國をして人種平等の大理想を實現せしむるところの天意であつたと私は信ずるのであります。

尙ほ私は深く信ずる事が一つあります、天地神明は僅に皮膚の色の濃いとか薄いとかいふ事を以て人種の上下を區別するといふお考は、斷じてあるまいと私は信ずるのであります。即ち我々はこの人種平等といふところの大理想を實現せしむるといふことは天意であり、さうして我國の建國の理想を遂行するところの大任務であると信ずるのであります。これは私の獨斷的の理想では決してありませぬ、吾々日本人は明治大帝の御指導の下に有意識的に或は無意識的に、この理想を以て今日まで進んで來たのであります。いま明治大帝の御製に依つて之を證據立てゝ見ますならば、

よきを取りあしきを捨てゝ外國に劣らぬ國となすよしもがな

斯ういふ御製があります、これは即ち建國の精神たるところの包容海の如く、清濁併せ呑んで之を同化するところの大きな御精神であります。即ち開國進取の御精神であります。更に又

國といふ國のかゞみとなるばかりみがけますらを大和魂

斯ういふ御製を承つて居ります、明治大帝は天地神明の御意思を尊重して之を實現せられる爲めに、斯ういふ大なる御抱負の下に御政治を行はれ、さうして何處までも向上發展を圖つて、帝國をしてこの大任務を果させようとする御理想であつたことは、拜察するに餘りあることゝ信じます。然るに明治大帝が崩御になりてどういふ風であつたかといへば、歴代の外交當局者は歐米の精粕を嘗めて追從外交を事とし、さうして彼等の尻馬に乘つて有色人種を窘めて、殊に支那などを窘めて、さうして今日のやうな甚しき失態を釀すに至つたといふことは、甚だ遺憾に堪へないと私は信じます。

只今も申した通り、日本の外交といふものは殘念ながら追從外交であつたのであります。併し茲に一つ――これは初めてのやうに思ひますが、日本が立派な理想を國際會議に出した事があるのであります。それは皆樣御承知の通りに、世界大戰の終りに於て巴里に於て平和會議の開けた折に、人種平等といふ事を日本が申し出したのでありますが、これはいつもに似合はず可なり强硬に闘つたのであります。併ながら、時利あらず、到頭それを撤回するに至つたのでありますけれども、只は撤回しない、今この事を根本的に解決するのには非常に時を要する、今はお互に休戰中でさうして非常に苦しい時である、長時間をこの爲めに費すに忍びないからして此の際は撤回をする、併ながらこれは正義人道に基くところの大主義であるから。次の折を見たならば必ず提出するといふことを聲明して、さうして撤回したのであります。然るに今になつて亞米利加はどんな事をしましたか、これだけ文明の程度も進み、これだけの强國であるところの我が國を劣等國として、吾々までも差別的待遇をしようとすることは、甚だ不都合千萬な事であります。若し斯ういふ不都合な事を吾々甘受したならばどうなりませうか、世界人口の三分の二を有するところの有色人種の爲めに氣燄を吐き、さうしてこの差別的待遇を撤廢して天意に副ふことの出來る者が何處にありますか、此の任務を遂行するのは吾々より外には無いではありませんか。

諸君、歴史は繰返すといふことは昔からの眞理になつて居ります、明治維新以來の歴史を辿つて考へて

見るとどういふ事がありませうか。明治七年には臺灣の役がありました、明治十七年には朝鮮の役がありました、丁度十年毎であります、明治二十七年には日清戰役がありました、明治三十七年には日露の戰役がありました、それから丁度十年經つて大正三年には世界大戰に日本が加入して居ります、それから又十年經つて今度の事が起つたのであります。この前の五回の事變に際してはいつも干戈に訴へて、さうして武を穢すことなく、武力を以て解決を告げて國威を發展して來て居るのであります。併ながら今日はどうでありませうか、甚だ言ふに忍びない。今度の事は明治三十九年からだん〳〵と來たのである、嚴つて蹴つて突き飛ばしてさうして閉め出しを食はしたのである、さうして「お前達の顏は黃色い、面が氣に食はないから出て行け」斯ういふ言ひ方であります。斯ういふ事をされて、前の五回の時のやうに吾々は干戈を執つてさうして解決を附けることが出來ると思ひますか、さういふ事をされたけれども今はその時期ではない、今はそんな事は出來ないと言はなければならないのは、何と殘念な事ではありませぬか。

その出來ないといふ理由は私は言ふに忍びないやうな感じを致します、諸君も聞きたくはありますまい、併ながら私は言はずには居られませぬ。唯だ單純なる軍事上の行動、軍事に關する事のみに就て言ひましたならば、殊に私の關係して居りますところの海軍に就て申したならば、私は敗けるとは思ひませぬ。私は虛勢を張るのではありませれけれども、若し私風情になりとも艦隊をお委せになつたならば、彼等を打破つて見せるといふだけのそれだけの氣慨はあります、自信もあります。これは決して虛勢で言ふのではありません。併ながら之には甚しく不利なるところの條件を附せられる、敵がこちらに攻め寄せて來たならば打破つて見せるといふだけのことである、それは私は請合つて宜いと思ひます。併し諸君、能く考へて御覽なさい、吾々の海軍といふものは華府會議に於て壓迫を受けて、屈辱的の會議に調印をして屈辱的に制限をされたのであります、僅か亞米利加の六割にしかなつて居らぬのであります、この六割の勢力を以て亞米利加まで攻めて行くといふ事は、これは迚も誰がやつても出來ないのであります。又モウ一つは若しも戰爭があつたとしたならば、これは長期に渉るものと覺悟をしなければならぬ、これが私は殘念である、此の疲弊したる所の經濟界を以て、而も言ふに忍びない所のこの不統一にして團結力に乏しい、輕佻浮華に流れたところの國民を背景として、之を以て彼の强國と戰ふといふことは、どうも私は決心が附かないのであります。これが私は殘念でたまらない。

この現問題に對するところの當座の處置としてはいろ〳〵ありませう、これは外交方面の事であります。即ち眞正直に言ひましたならば條理を正しくして、今の外交當局者のやつて居るやうに抗議を提出するといふことも、これも第一の方法としてはやるべき事でありませう。又日本の輿論を喚起し、亞米利加の輿論を喚起して——亞米利加の輿論も幾らか動いて居るさうであります——さうして根本的に條約の改正をして對等の交際をすることの出來るやうにする、斯ういふ事も一法でありませう。併ながら亞米利加といふ國は誠に不都合な國でありまして、外交當局者がいくら調印しても上院といふやうなものに依つて又引かゝるのであります。これは此の間の事件に就ても皆樣御承知の通りであります。それであるからして此の方法に依ることも見込はないと私は考へるのであります。又これも外交方面でありますが、日本と亞米利加の間には明治四十一年に調印してある所の紳裁々判の條約といふものがあります、之に依つて海牙に在る所の裁判所に訴へて黑白を爭ふ、これも一法であります。モウ一つは亞米利加は御承知の通り

國際聯盟には加はつて居らないけれども、國際司法裁判といふものには加はつて居る、それであるから之に訴へるといふ事も一つの方法でありませう。併ながら相手が相手であります、何處までも横車を押すものであります、それで仲裁々判に訴へることは嫌やだと言つてしまへば、それは話にならない。又さういふ事は他力本位のことでありますだから、斯ういふものは當てにすることは出來ない。然らば吾々はどうすれば宜いかといつたならば、吾々は自力を以てこの解決をするより外に仕樣がないのであります。之をどうすれば宜いかといつたならばいろ〳〵の議論もありませう、私の如き淺學の者でも多少の考は持つて居ります。併ながら之を一々申述べるのには非常な時間も要しますから、簡單に私の考だけをお話致したいと思ひます。

私は先程來申述べて居ります通り、私の最も恐れる所は、亞米利加よりも更に亞米利加かぶれをした所の、亞米利加崇拜の日本人であります。彼等は耻かし氣もなく、よく亞米利加を以て正義人道の國であるといふ事を申します。互米利加は正義人道の國であるといふ事は、一體誰が言ひ出したのですか、亞米利加人の自己廣告であります。歐羅巴邊に行つて御覽なさい、何處の國の人間が誰一人として、亞米利加が正義人道の國であるといつて尊敬して居る者がありますか。試みにこの數十年間亞米利加は外國に對して如何なる事をして居るか、亞米利加は墨西哥を窘めて非常に廣い所の領土を横奪して居ります、布哇をだまして布哇を併呑して居ります、西班牙に難くせを附けてこれと戰を交へて、さうして西班牙から廣い領土を奪ひ取つて居ります、パナマを煽動してコロンビアから叛かして、さうしてそれを自家藥籠のものとして取込んで、あの大きなパナマの運河を開鑿して居ります。皆彼等の横暴を以て他の國から奪ひ取つたのであります、さういふ不正義、不人道な事をして居るのであります。然らばこの不正義、不人道な大罪惡を犯したのに對して、それを打消すだけの善い事を何處にしましたか、一つも無い。即ち彼等は不正義不人道の國であります。又黄色人種を排斥したり、黑人をリンチといつて私の刑に處したり或は虐殺したりするといふ事は、今日本人で之を知らない者はありませぬ。斯ういふやうな不正義、不人道な事をするものは他の國には餘りありません、人道の敵であります。支那には昔から聖賢があつて、所謂孔孟その他の人が仁義道德といふ事を說いて居ります、所が德川時代の儒者等には、支那を以て中國として非常に尊敬を拂つたといふ歷史を有つて居ります、併ながら今日は誰も支那を以て仁義の國として尊敬して居る者は無いではありませぬか。併ながら支那は――國力の弱い故爲もありますけれども、他の國に對して亞米利加みたいな罪惡は犯して居りませぬ。若し亞米利加を以て正義人道の國だなどゝいふ事を言つて宜いとするならば、支那を以て仁義の國として大いに尊敬すべきでありますが、併し誰もそんな事を言ふ者はありませぬ。即ち日本人は、亞米利加を以て正義人道の國であるとして尊敬する事は慎めようではありませんか。

亞米利加を正義人道の國だなどといふ事を言ふ者は亞米利加の崇拜者であります。亞米利加の崇拜者といふものは、その或る者は亞米利加から金を貰つて學校を建てたり、敎會を建てたり、病院を建てたり、又或る者は亞米利加から金を貰つて勉强したり、その爲に立身出世をしたり、或は又亞米利加と商賣をして儲けたり、そんな事をして居る者であります。實に此の亞米利加崇拜の人達といふものは、日本人に對して拜金宗を鼓吹します、乞食根性を傳播させます、國民精神を腐爛させます、實に私は亞米利加人を

憎むようも亞米利加崇拜者を憎みたくて仕樣がないのであります。彼等は全く日本帝國の獅子身中の蟲であります。それで吾々はこの亞米利加かぶれの思想を驅逐しやうとすれば、先づ下劑をかけてこの獅子身中の蟲を驅除しなければならないと思ふ。

その次に私の非常に懸念するのは活動寫眞であります、活動寫眞といふものが人心に非常な影響を及ぼすといふことは、皆樣御承知の通りであります。私は何もボイコットといふやうなそんなけちくさい事を言ふのではありませんが、今外國から來る活動寫眞は多く亞米利加から來て居る、これにはそれは隨分娯樂として面白い事は澤山ありませう、併ながらこれが敎育上非常に良いものであるといふことは、私寡聞にしてあまり聞いたことがないのであります。而も今亞米利加に澤山の金を拂つて、さうして日本人にヤンキー思想の極く下劣な所を見せつけられるのでありますから、ヤンキー思想を鼓吹されて居る、それを澤山の金を拂つて面白いから見て居るといふのは、どうも愛國心のある所の日本人は忍びない所であると私は思ひます。どうか私はこの下卑たる所のヤンキー思想を鼓吹する活動寫眞を觀て貰ひたくない、又それは愛國心があれば觀たくないだらうと思ふ。

それから私は今度は活動寫眞に向つて大いに註文があります、之に就て私は多少の運動をしようと考へて居りますけれども、甚だ微力にして思ふに任せませんが、この活動寫眞に持つて行つて日本人は亞米利加に於て如何に辛苦勤勞をして、さうしてどういふ風にして成功をして、又如何なる事を以て擯斥をされて、さうしてどんな目に遇つて驅逐されるかといふ有樣を、極く事實に基いて、誇張的でなく活動寫眞に撮つて、立派なる辯士を附けて日本國中の津々浦々まで宣傳させようと思ふのであります。私は微力にして直接にそれだけの事をするだけの傳手を持ちませぬ、どうか有志の方に私はそれをお願したいのであります、今日排日問題に就て日本人が激昂して居る時分には、これは商賣上から言つても決して儲からぬ事はないだらうと思ひます。どうも活動寫眞の人達に向つて、商賣を度外して愛國的にやれと言つても到底行はれないと思ひますから、これは上手にやつたならば國益の爲でもあり、又自分等の商賣上にもあまり損害なしに行けるだらうと考へます。

モウ一つ私が考へるのは、これはどうも私自信がありませぬが、亞米利加人の不正義であり不人道であるといふ事を示す爲めに、亞米利加人は如何にして黑人を驅り殺しにするか、如何にして彼等を虐待するかといふことを、これも活動寫眞に撮つて見せたらどうかと思ひます。併ながらこれは成程亞米利加人の惡い所を見せる爲には宜いでありませうけれども、吾々の考へなければならぬのは、これは一つには日本の良風美俗を害することになるかも知れぬので、必ず良いとは斷言は出來ないのであります。併し諸君、吾々は活動寫眞に撮つてそれを人民に見せるのでさへも、尙ほ且つ日本の良風美俗を害するといふやうなさういふ惡い事を、平氣で面白がつてやつて居る所の亞米利加人といふものは、如何なる人種であるかといふことを諸君は考へる必要があると思ふ。

知識を世界に求めるといふことは素より非常に必要な事でありますが、亞米利加の知識を求めるに就てはよほど割引をしなければならないのであります。これは私は少しく例を擧げてお話しようと思ひます。亞米利加人は何でもかんでも世界第一といふ事を以て誇として居り、又世界第一と言ひたがるのであります。小さい事でありますけれども彼等の言ふ所を少し反駁しようと思ひますが、先づ日本を去つて布哇

に着きます、布哇の案内記を見るといふと、布哇の島といふものは世界第一の氣候の良い所で、第一の健康地であると、きつと書いてあります。果して布哇は左樣に世界第一の樂土でありませうか。それから布哇からちよつと自動車で三十分ばかり行く所に、何とかいふ名を忘れましたが崖があります、そこは昔布哇人が戰をしたといふ所で景色の良い名高い所でありますが、これを以て世界第一の斷崖であると言つて居ります。それから今度はヒーローの港へ行くといふと、レーン・ボーの瀧といふ小さな瀧がある、これは世界第一の風景の良い立派な瀧だと言つて居る、これは大嘘です。それから今度は同じ布哇にキラウエアといふ火山がある、これは世界第一の火山であると言つて居る、これも甚だ怪しい。更に又本陸に渡つて見るとどうであるかといへば、カリフォルニア洲は世界第一の氣候の良い所である、と言つて居る、これが本當とすれば布哇は嘘である、布哇を本當とすればカリフォルニアが嘘になる。それから今度はカリフォルニアのオレンヂは世界第一であると言つて居る、所が私は永らく地中海に行つて居りましたが、地中海のオレンヂに迚もかなはない、これも嘘。それから今度は亞米利加のメロンは世界第一等であると言ふ、所がパレスタインの方へ行つてメロンを食つて見ると、迚も亞米利加のメロンどころではない、これも嘘。何でもさういふやうに嘘ばかり澤山あるから、亞米利加の言ふ事を鵜呑みにして採つたならば大間違ひであります、であるから亞米利加に就て知識を得るといふことは必要でありますけれども、よほど割引をして見なければならぬ。

申す迄もなく今日は我が帝國に取つての非常なる危機に際會して、重大なる時機に立つて居るのであります。而も近來貿易の逆調といふものは、非常に我國の經濟界を危機に陥しいれて居るのであります、そこで吾々は努めて國產の奬勵といふことに努力しなければなりませぬ。所がどうも日本の品物は惡い、日本は粗製濫造であるといふ事は、遺憾ながらこれは本當である、であるから製造者、供給者の側に立つ者は努めて良い品物を廉く造るやうな方法を講じて、ごまかした物は造らないやうにして貰はなければならない。これと同時に消費者の側に立つたならば、少しは劣つて居つて不自由であつても國產で間に合ふ物は國產で間に合せるといふことをやつて貰ひたいと思ひます。殊に外國から來て居るところの贅澤品であります、これに依つて日本が金を搾られることは多大なものであります、これは金を保存する上に於ても、又良風美俗を維持する上に於ても、贅澤といふ事はやめて貰ひたい、殊に又外國品をあまり使つて貰ひたくないといふ事を私は申すのであります、而もその贅澤品の主なる物は、私が好まざる所の亞米利加から來る物が最も多いといふことを聞いて居ります。

私は前申した通り產業等の方面に就ては至つて知識が幼稚であります、併ながらその幼稚な知識の中から、尙ほ私は日本國民に對してモツと奮發して貰ひたいと申したいのであります。日本人はモウ少し奮發して自覺したならば、經濟的にそんなに亞米利加から支配されないで濟むと考へます。日本の貿易面も輸出品として最も重要なるものは、申すまでもなく生絲であります、その他茶とか樟腦とかいろ〳〵ありますけれども、生絲と比べると段が違ふ、即ち日本の貿易といふものはどういふやうにして成立つて居るかといへば、生絲を賣つてその金を以て綿を買ひ、羊毛を買ひ、機械を買ひ、鐵を買ひ、肥料を買ふといふやうな順序になつて居ります、尤も借金は澤山して居ります。此の生絲は何處へ行くかといつたならば、その八割といふものは亞米利加へ行つて居ります、それならば亞米利加はその生糸をどういふやうに

使つて居るかといつたならば、亞米利加は日本から買つた所の生糸を以て絹を製造して、これを世界中に賣つて居るのであります。日本人はモウ少し奮發をして、廉い生糸を賣る代りに加工して絹を造つて、世界中に高く賣つたならばどういふものでありませうか。どうしても此の原料なる所の未製品を賣るといふ事をやめて、既製品を賣るやうにしなくては、どうしても日本の經濟は立たないであらうと考へます。

生糸と同時に今度は纖維工業といふものが日本の工業の非常な主なる部分を爲して居るのでありまして即ち綿であります。綿は成程亞米利加から多くを輸入して居るのでありまして、亞米利加が第一等であります、これは當分どうしても亞米利加に供給を仰がなければならない。英吉利も世界第一等の綿の消費國でありまして、原料を亞米利加から餘計に取つて居りますが、これでは非常に不便であるといふ所から、埃及に於て、東亞弗利加に於て又印度に於て、棉花の栽培といふ事を非常に奬勵して、自給自足の途は遠からず立つやうになるといふことを、私は書いた物で見たのであります。果して今世界第一の棉花の消費國であるところの英吉利が自給自足をするやうになれば、亞米利加の棉花は日本が大なるお得意先になつて向ふからどうぞ買つて下さいと言つて來るやうになるだらうと思ひます。のみならず隣邦の支那には棉花の栽培に適する所の地味が非常に澤山あつて、亞米利加に決して劣らないといふことを申して居るやうであります、どうか日支共存共榮の下に、東洋方面に於て自給自足の途を講ずるやうにしたならば宜からう、この點に向つてもどうか奮起して貰ひたいと考へるのであります。綿花以外に亞米利加から來るものは、何も別段亞米利加から買はなければならないといふ物もない、歐羅巴方面からも買へればその他の方面からでも買へる物ばかりで、必しも亞米利加に賴らなければならないといふ物は無いやうであります。

私は生活の必要品といふやうな物までも亞米利加品をボイコットしろといふやうな、さういふ偏狹な考を以て言つて居るのではありません、併ながらどうかして日本の經濟は亞米利加に支配されないやうに、又奢侈品をあまり使はないやうにといふ事を希望する爲めに、これだけの事を申した次第であります。

我が隣邦の支那及び支那に隣して居る所の亞細亞諸邦に於ては、隨分亞米利加以上に富源が多いさうであります、それであるからどうか歐米崇拜の夢から醒めて、本當の本心に立返つて——私は敢て本心に立返れと申します——さうして歐米の尻馬に乘つて東洋諸國就中支那を窘めるやうな事はやめて、支那に讓るべきことは讓り、極東支那及び東洋諸邦と親善の途を講じてさうして共存共榮の實を擧げて、お互に切瑳琢磨してさうして東洋方面で大いに向上發展して、外國人の侮りを受けないやうにしたならば、然る後に初めてこの人種平等なるところの大理想を實現させることが出來ると私は考へるのであります。さういふやうに日本は之を指導して東洋方面を向上發展させて、さうして人種平等の理想を實現させるといふことは、これは天意であり又日本建國の大理想、大精神であると私は信ずるのであります。

話はだん〳〵是まで進んで參りましたが、尙ほ私は甚だ痛恨に堪へない事があります。それは何であるかといへば、我國の民衆は今日甚だ萎靡振はないのであります。若し我が日本帝國の人民擧つて明治大帝陛下の御在世中の如く眞面目であり、緊張して居つたならば、我國の國力といふものは今日どころではない、モツと〳〵發展して居つた事と私は信じます。又明治大帝陛下御在世中の大日本帝國の臣民の如く、打てば音がする、突けば撥ね返すといふだけの氣慨があり、底力のあるものであつたならば、まさか亞米利加はあんな横暴な、人を馬鹿にした事はしなかつたらうと私は信ずるのであります。斯の如くぶ

ん殿られ、閉め出されして、さうしてこんな耻辱を受けて、吾々は先帝陛下の御靈に對することは、誠に心苦しいではありませんか、而も尙は又維新當時以來の先輩に對して、何の顏があつて見えることが出來ますか、實に殘念でたまらないのであります。私は泣きたくなるといふのではありせん、泣かずには居れないのであります。

この國難に際して吾々は誰に恃みますか、嘗つて外國の難のあつた時分に、今度も伊勢の神風をお頼みしようといふことを、孝明天皇樣に申上げた者が多かつたさうであります、その時分に孝明天皇樣は何と仰せられたか、神頼みはいけないと仰せられた、その御歌に、

みな人の力のかぎりつくしてぞ後こそたのめ伊勢の神風

伊勢の神樣にお願するならば、どうか自分の力を强くして下さい、私共は奮發しますといふことをお願するならば宜いけれども、たゞ神風を吹かして下さいといふやうなお願は私は出來ないと思ひます。どうしても吾々は自力に恃むより外に仕樣がないのであります、お互に一生懸命に力を附けやうではありませんか。世間ではよく此の度の事件に憤慨のあまり、いろ〳〵の事を言つて居ります、假令國を擧げて燒土とならうとも此の屈辱には耐へられないと言つて居る者があります、又この怨を晴す爲には最後の血をも惜まないと言つて居る者も多々あります。私はその意氣には感心します、意氣が惡いとは申しませぬ、意氣は甚だ愛すべきである、さうしてその口調たるや頗る悲壯であります。併ながら冷靜に此の事を考へて見たならば、私はどうも賛成することは出來ない。少し極端に言つて見れば、市井の無頼漢が喧嘩をしてぶん殴られて、さうして殘念でたまらなくて憤死するといふやうな態度であります。私は之には賛成が出來ない、こんな事で此の金甌無缺の、さうして天意を果し大なる使命を遂行しようとするところの大日本帝國をそんな輕卒な取扱をすることは私は斷じて出來ませぬ。

それならばどうすれば宜いかといへば、吾々は隱忍持久、臥薪嘗膽、國力を養つてさうして必勝を期するより外に仕樣がないのであります。今を距ること三十年前、明治二十八年遼東還付の三國干涉のあつた際に、我が國民は非常に憤慨したのであります、丁度今度のやうにいろ〳〵な志士が出て憤死をしたやうな事もありました。私は今日の地方の有樣は知りません、東京では可なり緊張して居るやうであります、三十年前に在つては全國の津々浦々までも非常に憤慨をして非常に緊張したのであります。さうして臥薪嘗膽といふ事を標語として一生懸命に奮勵努力し、又勤儉節約を旨として國力を養つたのであります、さうして隱忍十年、漸く辱を雪ぐことが出來たのであります。而も今度の敵は、吾々が二十年前に對した所の敵よりもモツと頑强であると覺悟をしなければならないのであります。私は必ずしも戰爭をするといふ事ばかりを言ふのではありませぬけれども、これは明かに日本の敵であるのみならず、今日のやり方では世界人類の敵であります。故に吾々は戰爭をする時ばかりではない、之に向つては敢て敵といふ言葉を猶豫なく使ひます。この敵は二十年前に吾々が對した所の敵より遙に頑强なるものと吾々は覺悟しなければならない、それ故に吾々はあの當時よりも更に〳〵强い決心と努力とを以て實力を養つて、そうして今は仕方がないから毒蛇に卷きつけられて居りますが、時が來つたならば强い羽ばたきをしてそれを寸斷にして、毒蛇を食つてしまはうではありませんか。それだけの氣慨が無しに、唯だ空騷ぎばかりして居つては仕方がないのであります。どうも今は大分緊張して居りますけれども、又冷めてはいけない、隱忍持久し

なければならぬ、又臥薪嘗膽の精神を國内に漲らせなければならないのであります。さうして國力を養つて、敵の來るなきを恃まずに、待つあるを頼むといふのは、吾々の精神でなければならないのであります。吾々はこれ位の國難でへこ垂れるものではない、強い壓迫に遇へば遇ふほど強い反撥力を有して居ると私は信じます、又さうなければならないと思ひます。明治大帝陛下の御製に何と仰せられてありますか。

いかならんことにあひてもたわまぬはわかしきしまのやまとたましひ

これは吾々の反撥力であります、幾らでも來い、直ぐ發ね反してやる、幾らでも卷きついて來い、羽ばたきして食つて見せる、新ういふつもりで暫く隠忍持久して國力を養ふことに努力せられることを、切に希望する次第であります。

海軍中將　佐藤鐵太郎閣下著

此の際に於る吾人の覺悟

一部　十二錢　十二部　一圓（送料共）

發行所　名古屋市東區田代町城山　統一編輯局

振替名古屋　一〇八一九番

國家の興隆と佛法の興隆（中）

本多日生

此の講題に就ては前回に總論として一通りの事はお話したのでありますが、いま少し附加へて申上げて置きたい事があります。

我國の文教の方針、又廣くは國家の宗教政策と申しますか、廣い意味に於て言へば精神教化に關する所の國家の方針といふものが、適當な意味に於て確立せられて居ないと吾々は考へるのであります。明治維新以來五十七年の歳月を經過したのであるから、此の大事の問題が適當に決定せらるべきであるけれども、まだ五十七年經つても何となく國全體がザワ〳〵して居るやうな有樣で、政治上の事柄に就てもまだ全體として安定を得て居ないやうであり、社會事情に於ても變動變遷の道程に在るやうであつて、永遠の大方針を確立したとは申されないやうに思はれるのであります。今日は我國としては非常な大事な時機である、無論變化を計り、改善しなければならぬ事は多々ありませう、それは適當に公平に改善されて行くといふ事は、社會の進化に伴ふ施設として當然の事でありますが、永遠の方針として渝ふべからざる根本理想といふものは無くてはならない。社會を經營し國家を經綸するといふに就ては、時の古今に亘つて渝らないものがあると思ふのである。人間その者に就て考へても、時代に依つて變化するといふのは或る一面であつて、永遠に人といふ者の本性、本質、その生命に於て渝り得ない所がある。隨つて國家を經營するといふ事に於ても、根本の理想に於ては渝ふべからざるものが無ければならぬ。

是は一切萬事さういふものであつて、宇宙の大に就て考へても、常住不變の側と遷りかはる側といふものがあるのである。眞如の問題にも不變眞如、隨緣眞如といふが如く、心に就ても心の本體と心の現象といふが如く、敎を論ずる場合にも第一義悉檀と他の三悉檀の變化をはかり、體道、用道といふ事を論ずるが如きものであつて、一國の經綸政策の根本に於ては、萬世易ふべからざるものと、時代の必要に應じて變化を畫策すべき事柄とのあるのは、是は申す迄もないことである。

所が現代に及んで來たところの日本の政治方針といふものは、其の根本を確立して居ないものであると思ふのであります。どういふ點を根本と言ふかといへば、即ち政治上の法律經濟、或は權利、利益といふやうな問題を以て測いて行く側と、人間の根本理想に基いたる所の所謂精神生活、精神敎化を打樹てゝ進んで行く側といふものは、いつの時代でも偏廢すべからざるものである。他の言葉を以ていへば政治と敎化といふものは、互に調節併行すべき事柄で、大にして言へば國家と佛法といふものは無るべからざるものである。敎があつても國が滅びては何にもならない、國があつても理想を缺き、國民の人格が墮落して目的が低劣になつたならば、其の國家の存在は意義を成さない、兩々相扶けて行かなければならぬといふ原則があると思ふ。さういふ事を根本に考へないやうな人は、物事を論ずる資格の無い者で、即ち低能な人と謂はなければならぬ。

何事に就ても其の不變の大道を歩んで、さうして必要なる變化を計るといふ原則を動かす事があつたならば萬事已みなんでありますが、此の國家と佛法との問題を論ずるに方つては、二つの大きな謬見がそこに潜んで居る、それが我國を災ひして居ると私は考へるのである。其の一つは外來思想の影響であり、其の一つは日本文化の誤解である。此の内に於る誤解と、外から來た惡き影響との二つがこん絡つて、今なほ日本の國家の經營方針の根本が確立しないといふ失態に居ると、私は斷言する所の者であります。

外來の影響とは何であるかといふと、西洋の歴史をお考へになれば直ぐわかりますが、西洋は國家と宗敎といふものとが敵對行爲を以て、永い間鬪爭を以て來つて居るし、今も尙ほ其の調節は非常な厄介な問題になつて居るのである。最初羅馬が國家組織の形を造つたのである、そこに之に對して現れたものが基督敎の運動であつた、最初から羅馬の國家組織は、基督敎の敎會運動と相反目して起つて居るものである。基督が禁刑になつたのも、彼等の宗敎信條からは、是は人の罪に代つて禁刑になつたと言ふけれども、其の事實に現れた事柄はさうではないのであつて、やはり國家方針の側から見て基督その者は赦されないといふので、處刑せられたものである。それ故に此の事が非常な災ひを爲して來るのである、御承知の如く西洋の文化の源頭といふものは、希臘から來た哲學或は經濟——今の享樂生活のやうな人生現實の問題に根據して居る所の文化と、羅馬の法律政治を本にして國家の組織の方の側から文化を造るところの思想と、ヘブライに起つた基督敎の精神生活、神を本にして人生を導かうとする所の宗敎の敎化と、いま一つは個人の力、人間の力に賴らうとしたる所のチュートン民族の思想——今の獨逸魂のやうに人間の力を强く信じて、獨立獨歩、神にも依らず國にも依らず人にも依らず、俺は俺でやつて行くといふ思想、斯ういふやうな樣々な思想が初めから非常な衝突の形で現れて居るが爲に、國家から見て厄介な事を始終繰返して居るのである。今日世界の人類が禍ひを受けて居るのも、此の四系統の文明が適當に調節せられない點に、其の禍ひの根源は存すると私は考へて居る。

そこで廣くそれ等の關係を論ずることは今は別問題であるが、今言ふ羅馬の國家組織と基督教の教會政治といふものが第一に衝突した。最初羅馬はあらゆる文明を吸收して、ナーニ法律制度を以て取締をするならば如何なる思想が來ても構はぬ、希臘の哲學が來ようがヘブライの宗教が來ようが、そんなものは法律制度を以て取締つてさへ行けば心配するに足らぬといふので、規則で括つて行き居つた所が、人の精神の內部を支配する宗教はだん〳〵勢力を得るに至つて、法律も規則もはね飛ばして、終ひには羅馬の國家を打倒して、基督教が終に羅馬法王といふものになつて、羅馬の國家を喰つてしまつたのである。國家が宗教の爲に喰はれてしまつたのである。その喰つて居つた年代がどの位かといへば、千年以上も西洋では國家といふものを宗教が喰つてしまつたのである。

所が榮えるものは弊を生ずるで、羅馬法王が非常な贅澤な裕福な生活をするやうになつてそこに頽廢が起つて、其の最も著しいものは贖罪のお札を賣り出したのである、其の罪滅しのお札といふものが非常な高い値に賣れるやうになつた。日本でもお札といふものはあるけれども、併しさう高いものは無い、大抵は十錢か二十錢、よほど高いお札でも三圓か五圓で、百圓も出してお札を買つて來るといふ事は先づ無いのである。所が此の羅馬法王の賣り出したお札といふものは、五萬圓十萬圓といふ値で賣れるのである。どうしてそれがそんなに賣れるかと言つたならば、此の贖罪のお札といふのは、死んでから鬼に捕へられるのを免れるといふ事ではないので、生きて居る間に裁判官や警察官に捕へられる、其の罪を免れる力を持つて居るものである。羅馬法王は裁判官の裁判官なりといふ大權を持つて居る、即ち絕對の國家の主權者と同じ權力を持つて居るから、大審院で判決をしたものでも、羅馬法王が罪の無い人ちやと一口言つたならば、其の大審院の最終の判決も反古になつてしまふ譯である。そこで惡い事をしようといふ奴は、初めから三萬圓も五萬圓も出して羅馬法王から贖罪のお札を買つて、ちやんと紙入の中に入れて居る、さうしてウンと惡い事をして七萬圓の惡い事をしたならば、お札に五萬圓拂つてもまだ二萬圓は儲かるといふ譯だから、五萬圓のお札でも十萬圓のお札でもどん〳〵賣れるのである。其奴が惡事が發覺して捕まつて裁判所へ廻されて、だん〳〵調が面倒になつて來るといふと、「ちよつと待つて下さい」紙入から今のお札を出して見せて「私は此の通り神樣の御名代である法王樣から善人であるといふ證明を貰つて居る、あなた方俗吏たる者が私を罪人だなどゝいふのは勿體ない事です、私は神の前には善人でございます」と言ふ、裁判官はグーの音も出ない、忽ち無罪放免といふ事になる。さういふ事をやつたのである。

左樣な事が公然と行はれるほど他の方面に於ても樣々な弊害を生んで、あらゆる壓迫、橫暴を恣にするやうになつたから、そこでルーテルといふ者が起つて改革を唱へるに至つたのである。ルーテルは、羅馬法王は決して神の名代ではない、彼は神に背いて居るものであるといふ事で、非常に猛烈な反抗を試みたのであります、併し彼も終に激しい刑罰を受ける事になつた。其の命令書が來たのをば彼は演壇に於て引き裂いて、蠟燭の火で燒いてしまつた、さうして豪語して言ふには、唯斯ういふ書付を引き裂くのみではない、羅馬法王の彼の肉身を斯の如くに引き裂いて燒き殺さなければ已まぬといふやうな激烈な演說をして、それから騷ぎが始まつたのであるが、併し之にも其の裏面の事情がある。是が唯一個の坊主が徒に左樣な事を言うたならば、直ぐ引捕まへてやられてしまふのだけれども、それを捕へることの出來ないといふのは、其の時分の貴族といふ、澤山の土地を有つて居る大名のやうな者がルーテルの背後に在つて

「お前一つやつて呉れ」といふ事でやつたのである。それは何であるかといふと、此の宗教改革がうまく行つたならば、それに依つて基督教の勢力を打破つて、今の所謂國家の組織といふものをそこに作らうといふ、宗教を倒して國家が再び頭を擡げようといふ運動が、これが新教勃興の時の有力なる後楯となつて居つたのであります。それから終にこれが大きな戰爭になつて、基督教がだん〳〵其の勢力を喪つて現代の國家を産むといふことになつて來たのであるから、前には國家が宗教の爲に喰はれ、後には宗教が國家の爲にやられた所の仇敵同士である。それを色々の談判やからくりで以て、宗教と國家といふものを宜い加減に接拵して、さうして仲の好いやうな顏をして表面やつて居るのが今の西洋である。

そこで西洋の政治を學んだ人、國家の經綸を考へる人は、宗教といふものは油斷すべからざるものぢやといふ事が深く腦裡に刻み込まれて居る。それが明治維新の當時最初に西洋の學問をした人の頭腦に這入つて來た、殊に法律學をやる人の頭腦には、宗教といふものは恐ろしいものだといふ考が深くあつたのである。又西洋から承繼いで來た所の教育方針の中には、森有禮といふやうな人は早くから基督教にも入つて居るし、すつかり日本の文教の方針を西洋式にしようとした位であるが、終にそれが禍ひして殺されてしまつた。それから其の反動といふものが起つて、基督教といふものは油斷がならぬといふので、教育方針の上からは宗教といふものは學校の内に少しも入れないといふ方針を採つた。それで何とはなしに基督教を呪うて、教育者の宗教に對する攻撃といふものは屢々繰返されて、殊に加藤弘之氏や井上哲次郎氏に依つて基督教は屢々大打撃を受けたのである。それはやはり西洋の歴史にあつた國家と調和し難い宗教を考へて居るから、そこで我國は明治維新以來、政治の上からも教育の上からも宗教といふものを除外して進んで來た。今日も尙ほこの問題に就ては適當の解決は附いて居らぬのである。

左樣にして宗教を除外して進んだる教育の結果は、餘り唯物主義に流れて來て、そこに社會革命運動が現れて來た。先には宗教運動で國家をやられたのが怖かつたけれども、今度は經濟運動で國家を覆さんとする所の第二の敵が現れて來た。宗教を恐れて之を除外した教育をやつて人心を唯物主義に導いた結果、今度は唯物主義から來た經濟革命運動の社會主義といふ奴が、之を味方にしかけて來たから、是は大變だと言つて周章へて居るのが現代の日本の有樣である。是は皆西洋の誤れる思想の源を極めずして、先には宗教を敵視し、今は社會主義にぶつかつて、「少しは精神同題もやらなければいかぬ」といふので、前内閣などは「夫れ唯物偏傾の弊害は……」といふやうな事を言つて泣き聲を揚げたのである。併ながら唯幾にそこに唯物思想が社會を毒する事を認めたのみで、精神主義に復るとか、どういふ宗教に復るといふ樣な正確なる觀念を有つて居る次第ではない、唯まごついて悲鳴を擧げて居るだけのものである。それでは日本の國家が健全に發達はすまい、一人の人間ならば悲鳴を擧げてそれで死んでしまへばお終ひである、墓でも建てゝやれば宜いといふものだけれども、國家は一時の悲鳴を擧げて終を告ぐべきものではない。

斯の如き失態を見るに至つたのは、要するに今までの唯西洋の文明にのみ沒頭して居つた人、國家と宗教の關係の範を西洋に採つた人の間違ひである。日本の國家と日本の佛法の如きものは、左樣な喧嘩をして宗教が國家を喰つたとか、國家が宗教を滅ぼしたとかいふやうな歴史は、一頁も日本には無いのである。支那などには隨分佛法を保護した王樣もあるし、又排佛を斷行した王樣も出たけれども、日本は不思議なほど歴代の天皇に於て、排佛をお考へになつた方は一人もお出ましになつて居らぬやうに思ふのである。

初めて佛法が朝鮮から渡來した時に、採用すべきか否やといふ事が少しく問題になつたけれども、それも皇室に於ては最初から佛法を排斥遊ばされなかつた。むしろ皇室を代表せられる方の推古天皇、或は聖德太子、皆佛法を尊信なさることになつて、一旦憲法を定められて「篤く三寶を敬へ」といふことが定まつてからは、上朝廷を初めとして國民全體、一人も之に反對する者なくして、さかんに佛法が行はれるやうになつたのである。それから以來佛法が國家を呪うた事もなく、國家が佛法を虐待した事もない、唯其の調節がうまく行かないのは、坊さんの方の誤りもあり、政治家の方の誤りもあつたけれども、大體國家と佛法といふものは互に協力して今日に來つた、非常な美しい歴史を有つて居るものである。

それを考へすして、唯西洋の歴史にある國家と宗教との關係を其の儘日本に持つて來て考へた。恰も隣家の夫婦喧嘩を見て、非常に仲の好い家庭の夫婦の上に持つて來て、「隣りの亭主は毎日女房の頭をどづき居るから、お前も一つどづかなければいかぬ、隣りの方が何でも先進國で、向ふの方がえらいのだから……」と言はれて、「成程さうだ、隣りでは毎日どづいて居るのに、こつちは一ヶ月經つても頭一つ叩かぬやうな事では體裁が惡い、一つお前の頭を叩くぞ」、女房も「それでは仕方がありませぬから叩いて下さい」と言つて頭を差出して居るやうな譯ぢや。何も隣りでやつて居るからこつちでもやらねばならぬといふ事はない、それも善い事ならば眞似するも宜いけれども、惡い事ぢやないか。西洋にも無論善い事が段々あるだらうけれども、それは小さい事が善いので、大きな事は大抵西洋は惡いのである、重大な事柄に就てはグラ〳〵して居る。それは電車が動くとか、自動車が走るといふ事は、大きいといへば大きいやうなものであるけれども、是は小さい事である、人間は物質の生活といふものは、其の時代と境遇とに應じて進化して行けば宜いのである。皆が歩いて居る所に自動車が飛んで來れば、自動車は却つて邪魔になる。蒟蒻ばかり食つて居つた者が俄にコロッケだのビフテキだの食つたら胃を害してしまふ、さうして一遍ビフテキを食ひ出したら今度は蒟蒻を食ふのが嫌になるから、蒟蒻しか食へない者は蒟蒻で押切つたら宜い。生活は向上しなければならぬけれども、ガタ〳〵跛のやうなやり方をしてはいかぬ、一遍向上したらモウ逆戻りをしない、間違ひなくやり通して行けるといふ事を見定めて行くべきものである。煙草を喫む人が朝日なら朝日を敷島にかへる以上は、モウ再び朝日に逆戻りしないだけに、經濟の基礎から一切が確定してからやらなければいかぬ。「昨日は敷島を買つたけれども今日は錢が無いから朝日を買つた」といふやうな事をしたならば、朝日を喫ひ居る事が不愉快で仕方がない。日本人はさういふ跛の歩き方みたいな事をやるのである。

よく西洋から歸つて來た人が、西洋は非常に享樂の生活を理想して居る、それは社會が進歩して居るのである、何故かといへば現代人は勞働が激しくなり、活動が激しくなり、心配が激しくなつて居るから、一方に勞働と心配をやる以上は、一方にどうしても享樂をしなければならぬ、今迄の日本人のやうにボカンとして欠伸をして暮して居つた者は、享樂などは言はないでも宜い、朝から晩まで一つも心配しないのだから、夕方散歩に行つたりカフェーに行くといふ事は要らない、西洋人は朝起きるから心配もし、汗も掻き、ガタ〳〵やつて自動車に乘つて一日疲れて歸つて來るから、日暮にはちやんと享樂をしなければならぬ、是は時代が變化したのであるから、享樂を否定するといふことは間違つて居るといふ事を說明する、成程といふので皆手を拍つて感心して居る。それは如何にも原則としては敢て議論は間違はんけれども、

其の享樂といふものを一時與へられて又直ぐ奪はれるといふことになれば――例へば金口の煙草を喫ひ居つた奴が只の朝日も喫へなくなる、ビールやウィスキーを飲み居つた奴がどぶろくも飲めなくなるといふ事になると、それは非常な大きな問題になる。だから享樂といふものは堅實な基礎を得て、それから徐々にやつて行くべきものである。それを何も考のない若い夫婦が、自分達の月給も考へないでむやみに大きな、五十圓も七十圓もする家賃の家に入つて、毎日々々サア刺身を持つて來い、鰻丼を持つて來い、出かけるのだから俥を呼んで來いと言つてやつて居る、やつて居る間は大變好い心地かも知らんけれども、三月もするとサアあつちからもこつちからも借金取が來て仕方がない、逃も月給では追つかない、「お前の着物を質に置け」「質に置いても逃も足りませぬ」といふことになつて、駄落をしたり夜逃をしたりしなければならぬ。そんな事ならば初めから贅澤をしないで、儉約をして質素な生活をして、三年五年働いて着物の一枚も拵へるとか、たまには御馳走を食ふとかいふのが宜いか、どつちが宜いかといふ事を考へなければならぬ。

所が日本の今のやり方は、恰度經濟思想の無い新郎新婦が毎日西洋料理を食つたり、自動車を電話で呼べといふやうな事をやつて、三月もして駄落しなければならぬ、夜逃をしなければならぬといふやうな事をやるのであるから、さういふ事は生活の向上でもなければ享樂でもないのである。その短い時間の間は享樂のやうであるけれども、樂しんだのは三ケ月で苦しみは十年十五年、或は監獄へも行かなければならぬといふ事になると、差引勘定をして決してそれは享樂と言はるべきものではない、苦痛の原因を播いたものである、それが問題ナンである。順序よく進んで行く幸福とか樂みといふものに反對する者は一人もありはしない、不味い物を食ふより美味い物を食ふ方が宜い、それは汗を出して働くより遊んで居る方が宜いといふ位の事は、狂人でない以上誰でも知つて居る。そんな事は寧ろやはり引き締め〳〵して、漸進的に進んで行く事が善いと思ふのである。東京を復興するに就ても、東京の市街を桑港のやうにするとか、倫敦のやうにしなければならぬといふ事を考へて居るやうなもので、さうなれば結構のやうであるけれども、無暗に道路を擴げられたり、建築がやかましい規則になつたりして、いつ迄も家を建てる事が出來ないで夜逃しなければならぬといふ事になつたならば、是は非常に困る譯であるから、民度を考へなければならぬ。最初は非常な大きな豫算を立てゝやりかけて、それを途中で段々文句が出て來て小さくしてしまつたり、今度は考へて計り居つてなか〳〵容易に實行して呉れない、ガタ〳〵して其の中に市長も辭めて行つてしまつたといふやうな事になると、市民全體から考へても誠に困る譯である。だから初めからそんな尤大な事を言はずに、正確な計畫を樹てゝ着々と實際に運んで行かなければならぬ。

西洋を眞似る人のやり方は、どうも今まで跛が歩くやうなやり方ばかりやつて來た。法律といへば法律萬能で、何でも法律々々と言つて下らない事までむやみに法律規則を拵へてガチャ〳〵やる、それでやり損ふと今度はサウ法律々々と言つてもいかぬといつて、又之を後へ引戻す。さうして今度は經濟が根本だといふので實業家が大變威張り出す、所が今では又實業家もどうも困る、あまり金持が出しや張ると世の中を害すといふやうな事を言ひ出す、桂内閣の時代にはモウ實業家大明神で何でも實業家々々と言つたけれども、この頃では實業家がどうも自覺が無くて困るといふやうな事を言つて居る。いつでもやる事が逆戻りばかりして居る、今は頻りに勤儉貯蓄といふ事を言ひ居るが、是が少し經つと、さう儉約々々と言

つてもいかぬ、藥が利き過ぎるといふやうな事をきつと言ひ出す。少しも其の方針が正確に立たないといふのは、是は西洋を模倣する人に適當な人物が無い結果であると斷言して差支なからうと思ふ。大體西洋の文化はさういふ跛の文明ナンである、誠に危ない文明である。

（中　未　完）

大僧正　本多日生猊下著

綜合的佛教觀

四六版　三百頁
布製一部　金壹圓五十錢
送料書留　金十五錢

目次

第一回　總論阿含部……第二回　阿含部……
第三回　華嚴部……第四回　寶積部……
第五回　寶積部……第六回　般若部……
第七回　法華部

大藏經要義の著者本多日生猊下によつて編述せられたる綜合的佛教觀は、大方に薦むるに多言を要せざるべし、是非講讀せられよ。

發行所　東京府品川町南品川妙國寺内　大藏經要義刊行會　振替東京三一五九六番

賣捌所　名古屋市東區田代町城山　統一編輯局　振替名古屋一〇八一九番

罷睡錄（其五）

黃薇菴青村

九、大薩摩の秘画

（お師匠さんから坊さんになる迄）

朝早くから押し出した銀高の善男善女は、たちまち芝公園の空地といふ空地往來といふ往來を悉く埋めて、數珠つま繰る音念佛の聲は晴れた空の下に物すごい迄に響き渡つた。これこそ先ごろ芝增上寺に開かれた宗祖法然上人七百年忌の光景である。十二時近くなると稚兒行列が練り出すと云ふので、人出はいよ〳〵加はり、女子供は聲嗚をあげて逃げまどふ有樣であつた。不圖向ふを見ると後藤象次郎氏の銅像の傍らに六十三四の老婆が、春の光りをあびながら靜かに古三味線をかなでゝゐた。誰一人あはれな老婆を見かへるものはなかつた、老婆の手は勞れた、古三味線は力なく傍へ押しやられた、日からは溜息が漏れた。

其時である御成門の方から來た年のころ廿六七の若僧が此あはれな老婆の姿を見るや、暫らくその前に突つ立つて居たが、やがて老婆に輕く挨拶して古三味線を取り上げた、通行人は不思議な光景に目を見はつた、若僧は三味線の調子を合せ始めたが、やがて四方を取まいた群衆へ一禮してから、撥を持つ手が目にとゞまらぬ早さを以て大薩摩は靜かにひき出された、續いて逆しる調ちかな嗚の音、その入神の妙技に群衆はたゞ醉つたやうにどよめいた。かくて一曲を彈き終つた時には、若僧の周圍には白銅や銀貨が雨のやうに降つて居た、老婆もこの時まで失神した人のやうに、たゞ若僧の顏ばかり見つめて居た。若僧はやがて其處に撒き散された銀貨白銅を拾ひ集めて老婆の風呂敷に入れ、それを老婆に渡してから靜かに立處を立ち去ろうとした。老婆はあわてゝ墨衣の袖にすがりついて『お名前は』と尋ねた、若僧は靜かにそれを拂いのけて『名のあるものではありません、何れ御緣がありましたらお目に掛りませう』と云いおいて立ち去つた。老婆は感極まつて大地に泣き伏した、群衆の眼にも涙が光つた、群衆はその若僧の何人なるかを知らず、たゞ『奇特な人である』と感歎の聲を放つばかりだつた。

此若僧の善行はそのまゝ隱れて擧はなかつた、本社の探訪によつて漸く若僧の身もとは明かとなつた。若僧は麻布區竹谷町二番地の武田博芳氏（二六）で、頭を剃たのは二三ケ月前のことである。本業は當盤津の師匠で藝名を華壽美太夫と呼び、四谷北伊賀町の麒麟太夫の高弟で天才として斯界に重きをなして居た。武田君は語る『あんな事が知れましたか、誠にお恥しい次第です、たまたま通りかゝつた所が氣の毒なお婆さんが居たので、思はず飛び出して、おせつかいをやつた迄です、

其お婆さんも見た所身分あるらしく上品に見え、多分震災に遭ってこんな境遇に落ちたものだらうと思ひたので一層心を動かされたのでした。私が藝人としての生活を捨て、頭をまるめる迄には涙の出るやうな物語があります、それをお話すれば師匠の鎌鱗太夫の不義を明るみに出さねばなりませんが、それは私には忍びません、震災當時の私は及ばずながら死ん踏して師匠の家のために働いたものです、それが同藝の中傷から師匠と絶縁する事になりました。其時一層藝人をやめて終ふかと思ひましたが、折角の藝をたゞ腐らせてはつまらない、せめて人の爲になることが出來たらと、同志のものと二人で三味線を抱へてバラタを廻つて罹災者を慰めたり、エビス駅のガード下へ出て通行人に聞て貰つて、その貰つた金でビスケットを買つてバラタへ配つたりしましたが、活動が激しかつたので到頭病氣になつて斯うして床に就いて居るやうな始末です。學校は中學を出た計りですが、宗教に對しては十七八歳頃までにキリスト教でも佛教でも生かじりながら研究して見ました、斯うして病氣になつてから世の中の事自分の事を考へると、宗教に依て救はれるより自分の今後生きられる道はないやうに思ひまして、斷然頭を剃て本多日生師の教示を受けるやうになりました」と。（大正十三、四、二八東京日日新聞）

語に曰く才子多病と。斯人如今病を養ふて麻布の自宅に伺臥せりと、あわれ佛祖の御冥助を得て一日も早く其健康を回復し、日蓮主義興宣傳の聖業に從事さられんことを、所希此事なり。由來專門家の宣傳は偉人にあらざる限り比較的その効果尠なし、我田引水と世人に誘惑せらるゝが故なり、されば注一時流行せし陸海軍將校連の講演も、近頃は復聞てかと少々鼻につきかけたり、若しそれ藝術家の立場より之を敢てせん乎、効果甚大なるものあらん。殊に大聖人の御一代中龍口の斬首小松原の刄難さては佐渡雪中の光景等、大菩薩峠に打てつけの場面多々、そが書きおろしの如きは敢て文學者其人に乏しからず、宜しく斯人の爲に一臂の勞を吝まず、兩々相扶けて斯道の發展に壽されんことを、老比丘敢てお願ひ申す。

十、座敷へ小便

竹中半兵衛が軍物語の最中、一子左京が中座したので『どうして其方は軍學を聞き乍ら中座した』と詰責すると、『父上便所へ參りまして御坐ります』と左京は答へた『馬鹿小便したくば何故座敷でせぬのぢや、半兵衛の倅左京は武道の話に聞き入つて座敷へ小便したと云はれなば、我家の面目ぢやに意氣地ない奴ぢや』と、其怠慢を甚しく叱つた、竹中流と云ふ軍學は此半兵衛の編出したものである。

我子の怠慢を誡むる爲に『小便したくば何故座敷でせぬ……意氣地なし奴が』とは、如何にも面白い。此熱心ありてこそだ、高聖は此意氣此意氣、氣のぬけたビール流は眞平御免だ。止暇睡眠の嚴調を垂下し給ひし聖日蓮の御門下に列するもの、ゆめ聞き流しにせずと特に宰記省察すべき小話だと存する。

日蓮主義より見たる無量義經（第十九回）

井村日咸

世尊。是經典者不可思議。唯願世尊廣爲大衆慈哀敷演是經甚深不思議事

第三段「衆の爲に問を發す」る中に先づ經の難思議なるを歎じて問を發すの序と爲さんと爲したのである。是經典の所說の內容充實して整備せるを讃歎したもので、是より問はんとする處は、佛敎の各方面を一言にして提げ來らんとするものなれば、茲に不思議の事を敷演し給へと乞ふたのである。

世尊。是經典者從何所來。去何所至。住何所住。乃有如是無量功德不思議力令衆疾成阿耨多羅三藐三菩提

（二八、一仝、五）

次に「正しく問ふ」で質問の趣旨を擧げた、三問ある、一、是經典は何れの所より出で來りしものか、二、是經典は何人に向つて與へられしものか、三、是經典は如何に實際的に其機能を現して居るか、と云ふ三問題を提起して其答を求めたのである、此三問は尠くとも佛敎を信ずるものとしては當然起らざるを得ない質問であらうと思ふ、信仰を論ずるには其信仰の源泉は何れにありやと云ふことは最初に考へねばならぬ重要の事柄である、觀念行に於て己が心を其境的として思索を廻らすならば敢て信仰の源泉を尋ぬる必要はないが、信仰を語る以上は其信仰の發生し來るべき根源を索めずしては信仰の實躰は有り得ない、現今の佛敎信者の信仰意識が時に明燎を釋いて居る樣に見へ、何等捕捉する處なきの狀

態に在るのは此點に於て會得せざるが故である、救濟を與へらるゝ根源を求めずして救濟を受けんと企つるならば永久に救濟は得られないであろう、今此點を第一の問題として提起したのは大に意義ありと言はねばならぬ。次は救濟を與へらるゝ目的は惱める人生に對して苦惱を除かんとせらるゝにあることを明かさんとして第二問は發せられた、我等が信ずる佛敎は先覺者たる佛陀が、我等人生の有樣を觀見して無處に憐愍の心を生じ、救濟せんとの慈悲に其根源を發するが、其慈悲の救護の御手は我等が如き苦惱に沈めるものに與へらるゝので、其救濟の御手に縋らんとする其精神が即ち信仰と稱せらるゝ、信仰とは佛陀と吾人の握手する其處に發生するものである其關係を同はんとするが、此質問である。握手の上に其れが實際的に如何なる影響を及ぼすか、其効果を同はんとするが第三問である、此三問に對して佛の答は簡單明了である、先づ大莊嚴等の經を

默せるに對して、

爾時世尊告二大莊嚴菩薩一言。善哉善哉。善男子。如レ是如レ是如二汝所一說。善男子我說二是經一甚深甚深眞實甚深中略行二大直道一無二留難一故。（二八、五―二九、一）

と說いて、汝の言ふ所の如く此經は眞實に甚深の意義を說けりと云ふことを承認せられたのである。

善男子。汝問、是經從二何所一來。去何所至。住何所住者。當二善諦聽一。善男子。是經本從二諸佛室宅中一來。去至二一切衆生發菩提心一住二諸菩薩所行之處一。善男子是經如レ是來如レ是去如レ是住。是故此經能有二如レ是無量功德不思議力一令二衆疾成二無上菩提一（二九、一―全六）

佛の「正答」である、前の三問に對して、先づ第一に「此經は本諸佛の室宅の中より來る」と答へられた、本とは根本の義で、其根源する處は諸佛の室宅の中から出で來たのであると言はれた、室宅と云ふことは佛の慈悲心の事である、法華經法師品の中に「如來の室とは一切衆生の中の大慈悲心是なり、」（鳩法、二五四頁）又同品の偈頌には「大慈悲を室となす」（鳩法、二五六頁）と說いてあつて、大慈悲心を如來の室宅と言ふたのである、そうすると、此經は其根源を如來の大慈悲心に發して居ると言ふのである、如來の大慈悲心が我等の苦惱を救はんとの思召よりして此經を說き給ふたのである、壽景品の最後に「每に自ら是念を作す」と云ふ、是念とは大慈悲心である、此慈悲の念より、「何を以てか衆生をして無上道に入らしめん」と爲られた、其「何」と云ふのが此經と爲つて顯はれて來たもので、如來の說法は我等苦惱の衆生を救はんとせらるゝ救濟の御手である、其救濟の御手は其根源を如來の大慈悲心に發して居ると云ふことは必ず忘れてはならぬ大事な點である、其を第一に答へられた。次には其救濟の御手は何れに垂れらるゝかを答へて、一切衆生の發菩提心即ち求道の心を發したものに向つて與へらるゝ、苟且にも如來の慈悲に感孚し道を求めんとの志を發したならば、如來救濟の御手は直に其處に垂られ攝取せられ得るのである、如來の救濟の御手と我等求道の精神と結合した處を信仰と稱するのである、双方の意志が一致して救はう救はれやうどうぞお願しますと堅く握手した處が本當の信仰と云ふのである、それ故信仰と云ふのは救ふ方と救はるゝ方との意志が合致せねば成立ないと云ふことを能く考へて置かねばならぬ、そうすると現今の信者と稱するものゝ信仰は大部分成つて居らぬ樣に思はるゝ、相手方の實躰が分らぬもの、慈悲が在るか無いか得體の知れぬものに信仰を捧げて居るので何にも爲らぬ、無駄骨折に終ることであらうと思ふ、信仰に志す人は注意せねばならぬ事である。其握手が濟むと、今度は實

際に教化を受けねばならぬ、救済て貰はねばならぬ、其救済は教法に隨順し其教法を規矩準繩として我等の日常の行動を匡正して行かねばならぬ、我等日常の行動は我儘勝手の事のみ仕て居るので、此我儘を教法の規則に依つて矯め直すことが實行せられねばならぬ、是を修行と云ふ、第三點は夫である、菩薩所行の處に住すとは我等の實行部面を擧げられたのである。我等の日常の行動が教法の通りに矯め直されて少も間違なくなれば信仰の成就で、結論に到達した譯であるが、其結果を得るまでに少々づゝの効果が顯はるゝ、此が此品の次に說く十功德である、少分より多分に、遂には完全に進み得るのである、此三問に對する三答は佛教教觀の綱領を示したものである。又日蓮聖人の教義たる三大秘法と云ふも要は此三字に過ぎぬ、本門の本尊は「來」の義、本門の題目は「至」の義、本門の戒壇は「住」の義である。本尊は如來と、其の大慈悲を根源として說かれたる教法と其教法を宣傳する僧伽とを一具して本門の本尊とし示されたので、信仰の發生すべき源泉を本尊と云ふのであるから、此經の「來」の字に爲る。我等の信仰を本門の本尊に歸命し渴仰して發生する求道の精神なれば、此經の至の義に當る。我等の信仰を本尊の慈悲の連鎖に本門の戒法ありて常に其實行を誤らざらしむるのであるが故、此經の「所行の處に住す」と言へるに該當するのである。來至住の三字文字は甚だ少ないが此三字の中に佛教の大問題が凡て包含せらるゝのであるから、如來は此質問に對して「甚深甚深、眞實甚深」、と叮嚀に御稱歎し相成つたものと察せらるゝのである。此三義と日蓮聖人の三大秘法の關係及び佛教教觀の大綱と此三義との關係に就ては拙者「日蓮聖人の宗旨」の中に委しくお噺を致して居りますから省略致して置きますが、兎に角此三字は文字少しと雖ども其義甚だ深しと云ふことを御承知ありたい。

記事

統一團活動誌

統一團に於て、十月中に各種會合を左の如く開催し何れも大成功を收めた。

△十月五日午前九時半より、近衛歩兵第一聯隊兵員招待會を開き「心と心」本多貌下「吾人の覺悟」佐藤中將餘興落語來會者七百人　△仝日午后一時半より日曜公開宗教講演「國と人と教」本多貌下「時局と日蓮主義」野口僧正來會者約三百五十人　△十二日午前九時半より、近衛歩兵第二聯隊兵員招待會「重大なる時局に就て」野澤少將餘興活動寫眞來會八百人　△仝日午后一時半より、日曜公開宗教講演「佛身觀の優劣」野澤少將「日蓮神讚」笹川日堂師來會者三百五十人　△十七日午前九時より、近衛輜重兵大隊工兵第一大隊輜重兵第一大隊兵員招待會「開會の辭」岩野直英師「發大の除謀とその對策」大河內越山氏餘興活動寫眞等來會二百五十人　△十九日午前九時半より近衛歩兵第一聯隊兵員招待會、「開會の辭」岩野少將「時局に關しての所感」佐藤中將「軍人精神に就て」本多貌下。餘興活動寫眞來會約二百五十人　△同日午後一時半より、日曜公開宗教講演「彌陀出現の根本義」高木日靖師「法華經と吾等」森川日修師「宗教の五綱に就て」本多日生貌下來會三百五十人△廿六日午前九時半、近衛歩兵第二聯隊兵員招待會「誦書奉載の心得」本多貌下餘興活動寫眞來會者三十餘人△仝日午后一時半より、日曜公開宗教講演「日蓮主義と攝折二門」井村日成師「法華修行の安心」本多貌下來會者約四百

又十一月中に於ける、行事は九日に誦書奉載一週年記念野外宣傳大會を行ひ、廿日立正大師御會式法要講演ある外、左の日時に日曜公開宗教講演ある筈である。

△十一月二日午后一時より、「日蓮一期の大事」秋山乾英師「遺傳の教ひ」小西日喜師　△九日午后一時より、「日本文明の基礎」笹川日堂師「法華經研究の順序」本多貌下　△十六日午后一時より、「佛陀の教を軌範として」安田白城師「法華本門の經旨」井村日成師　△廿三日午后一時より「法華經と吾等」森川日修師外大森日榮師　△廿日午后一時より、野口日主師本多貌下の講演ある筈。

九日の野外宣傳は自働車六台を使用し、馬場先門内集合地点より、三方に分れて宣傳ビラ五萬枚を散布する筈である。

各地教信

本山十月教信　△一日午后二時於本山開講會修行後講演「信仰に就て」金光孝碩師△二日夜七時、本山講堂にて發來講正會に會員のみの研究講演なりしも、新本山部長の試として公開講演とせしに頗る成績良好なりしに依り、爾來公開とす。「佛教の大綱講演」本山

部長原田日勇師△五日健兒會例會中村中島土持講師出演△十一日統一團青年會総會　統一團付屬事業として、從來健兒會を毎日曜に開催し「カード」の發行其他相當好成績に進行しつゝありしが、新部長原田師新任と同時に全付屬事業として、こゝに統一團青年會を組織し最初は在家を中心としての十七才已上の青年に入會を勸誘し漸次一般社會に向つて實行する事となり、第一回の試として、十月十一日午后七時本山にて其發會式を擧行す。「發會の辭」本山部長原田日勇師。「來賓祝詞」陸軍少將細野長雄閣下。「會員祝辭」京大生東村恒次氏。茶話會。交名紹介。會員現在三十三名青年の元氣旺盛にして綱目にある討論、藝術上に就て大に研究將來有爲の人格者となり、社會に貢獻を期せり。青年會長につきては、種々意見もありしも結局細野長雄閣下を會長に推し決議を得た。△十二日夜宗祖御遠夜御會式聽修「說教」京藤義應師、原田日勇師。△十三日午前十時より、御正當會聽修「說教」三谷會善師、萩原日道師。

△十六日夜於本山講堂統一團例會「眞と人と敎」本多管長祝辭、「閉會の辭」布田宏道師。來聽者參百四十五名ありき。△十七日法光院宗祖御會式修行「信念の力」原田本山部長。△仝日成就院御會式修行「偉人の言動」布田宏道師。△十八日本山例會公會講演「生活の要諦」豐田道泰師、「聖賢に何を學ぶべき敎」布田宏道師、「靈國日本と聖日蓮」原田日勇師。△同日大慈院御會式修行后「日蓮上人の御德につき」土持良達師講演。△十九日健兒會開催山田、豐田、土持各師出演。△仝午后二時より、寂光寺にて立正會例會「混亂の巷に立ちて」陸軍少將細野長雄閣下「生殺與奪の權は法花經にあり」信正萩原日道師。△二十日正行院御會式修行「佛力と信力」本山部長原田日勇師。△二十三日高辻久遠寺例會「生活に信仰を加へよ」金光布敎師、「時事所感」陸軍少將細野長雄閣下。△二十八日興山會修行后講演「沈着と果斷」土持良達師。

京洛敎信

△七月八日本正寺二樂會時局大講演會「排日に對する吾等の覺悟」陸軍少將彩村勇次郎「排日問題に就て」法學博士千賀鎰太郎「時局と統一神敎」野口種大信正來聽者二百餘名なり。△仝十日本正寺婦人會「信心と智慧」金光孝碩。△八月三日數年間眞宗信者なりし田中勤氏改宗式擧行「本尊に就て」金光布敎師。△八月八日本正寺二樂會例會「時局に當面して」細野陸軍少將「更に生活を日蓮に學べ」原田本山部長。△八月廿一日本正寺西龍金會法要「信仰に就て」萩原信正。△九月八日本正寺二樂會例會「聖訓要義に就て」金光會長「時事所感」細野閣下「仝佛敎の實踐」萩原信正。△九月廿一日本正寺彼岸法要「現代生活に就て」金光山主。△十月一日本山國藏會「運命と信仰」仝光布敎師。△十月八日本正寺二樂會例會「活たる信仰」中島幸治「思想問題と法華經主義」陸軍少將細野長雄閣下。△十月十日本正寺婦人會例會「法華經講義に就て」金光孝碩。△十月十一日森田家追善法話「日蓮上人の慈愛と信仰」金光布敎師。△十月廿二日久遠寺統一團例會「法華經に就て」三好信道「生活に信仰を加へよ」金光布敎師「混亂の巷に立ちて」細野閣下。

大阪敎報

十月十一日常國寺にて龍口法難會「法難の浪懷」橫山惠正師「日蓮聖人の大信念」。△十二日天王寺公園博物場にて「國民精神の作興」本多祝下。△仝夜市民館にて「三敎の敎化」本多祝下。△十三日午前淨高等女學校にて「女子と修養」本多祝下△仝夜府立實業會館にて立正結社秋季大會「犧牲的精神」原田日勇師「眞と人と敎」本多祝下。△二十二日堂國寺にて「信仰と善德」石井得雄氏「實土の實現」京藤布敎師、何れも盛會、深き印象と強き反響を與へた。

千葉敎報

△例月廿一日午后七時を期し佐倉町自啓會主催で鹿島町妙經寺にて例會を開き、武田文學士の講演がある筈。△十月廿八日佐倉町妙經寺にて仝町自啓會主催で仝日午前十時より、震災慎死者追悼法會を營み午后一時より、思想善導秋季大講演會を開き、本多大信正を始め武田顯龍、草切信榮兩師の講演があり、來會者堂に溢る、頗る盛會であつた。

四布敎區布敎通信

△九月一日正午より、東郷村小野蓮成寺に於て、大震災災横死者の一周年追悼法要を修し、「大震災を顧みて」高貫布敎師。「熔熔千に穢一つ」小嶋布敎師の講演あり。△仝十四日正午仝村七流龍鑑寺にて法要後講演「開會の辭」小川山主。「佛敎とは」高貫布敎師。「感激の精神」小嶋布敎師。△仝十五日長柄村國府里廣福寺にて講演「開會の辭」木村令快。「信仰と生活」小嶋布敎師。「正しき信解」高貫布敎師。「長村振興に就て」高橋學校長。△仝十六日午后一時新治村太田萬光寺にて開催「開會の辭」渡邊山主。「佛の敎」高貫布敎師。「信仰と生活」小嶋布敎師。△仝二十七日午后一時鹿沼町長圓寺にて「忠孝道德」秋葉日敬。「時勢革正」小嶋布敎師。「佛敎の大要」高貫布敎師。△十月一日興府開知意輪寺にて開催「開會の辭」或嶋日術。「たちひの福音」小嶋布敎師。「信仰と修養」高貫布敎師。△十月二日國村福嶋常福寺にて開會「開會の辭」江野澤祐全「信仰と感激」小嶋布敎師「人と敎」高貫布敎師。△十月三日午后一時より、南白鳥村五井觀成寺にて、「人と敎」高貫布敎師。「平和の生活」小嶋布敎師。△十月四日白鳥村幸治妙興寺にて開催、「歡喜の生活」小嶋布敎師。「人と敎」高貫布敎師。△十月五日豊田村長尾大樂寺にて開催、「開會の辭」池澤泰明。「精神作興に就て」高貫布敎師。「信仰と生活」小嶋布敎師。△十月十三日南橫川曙會第四例會講演「法華經に就て一」高貫布敎師。△同二十三日仝第五例會「法華經に就て二」高橋布敎師。△仝日夜第七例會「法華經に就て二」高貫布敎師。△十一月九日正午小野蓮成寺にて宗祖御會式後「人生と宗敎」高貫布敎師。宗學研究會の成立。四布敎區青年有志者發起の下に新らたに純正敎學の研究を目的として生れたる同會は宗門布敎の根本方針に抵觸せる範圍に於て、區內布敎刷新の爲めに努力すると同時に會員各自の宗學研磨に努力する由にて來る十一月二十五日本納蓮福寺にて第一回を開催すると云ふ。

十月三十日午后一時立正結社法日支部講演「開會」山形山主「信仰に就て」高貫布敎師。「信心は何んの爲めにするか」「川崎英照師。△仝夜午后七時より仝遠婦人會「婦人の修養」小嶋布敎師。「絲與」手代木常堅。

名古屋敎報

△九月八日妙敎婦人會例會井村信正の講演△十月八日妙敎婦人會例會、原田本山部長の講演。△同二十二日日蓮主義講演會、「宗敎の五綱」本多祝下。聽衆八百五十。△同二十三日行學會例會「維摩經と剃髮經」本多祝下。以上中區新榮町の常樂寺出張所で講演會が開催された。

金澤敎信

△十月八日於釜谷本成寺「法華經と女性」(二)雀田純榮師。△十三日夜、立正會講演「日蓮主義の生命」本郷宮次郎氏△十七日夜於坂井氏宅「日蓮聖人傳綱」本郷氏△十九日於三由氏宅「靈魂不滅」田師。△廿一日於本覺寺例會式講演「報恩謝德」雀田師「日蓮聖人の人格」本郷氏、△廿二日午後二時於本長寺例會式「立正安國」雀田師「四箇格言の由來」本郷氏、△廿四日夜、曉明婦人會講演「佛敎の特色」本郷氏、△廿六日夜於本長寺、天晴會講演「化城喩品概觀」其二、雀田師、「大藏經講義」本郷氏、△廿八日本行寺會式講演「長大善を勸めん」雀田師「日蓮聖人の感見」本郷氏

羽前敎報

栗郷本覺寺にては、十月四日午仝堀金寶藏寺にて仝月十七日少年少女會を開催す。

△資藏寺住職村田義本師は来豊聯盟長より、全郡中部村民力涵養實行委員を囑託せられた

名古屋自慶會報

△十月二十一日豊田織布敷下工場、「人と緣」△同日同上押切工場「宗教的の修養」△同日遵定合名會社、「國民的良心」△同廿二日豊田本社、「國民的良心」△同日豊田式織機、「國民的良心」△同廿三日山岸製材「人心變化に就て」△同日日本車輌、「國民的良心」以上何れも本多稅下講演。

眞鄙な信仰を眞ツ向正面に

中國から九州地方監督布教

此の秋支那へ行かうと準備したが、動亂でだめになつた。が、呉の軍港と關門の門司とに我宗の教會が出來そうな機運が、ムク〳〵して居る。支那行は春に延したが、正法發揚の妙機を逸しく逸する事がどうして出來よう。即ち十月二十三日本多稅下の名古屋宣傳を終つて、二十四日一日に四つの法要と、四日市で葬儀一つと、山の幾な宣傳と關聯の用務を片付けて、二十五日末明急行列車に乘込んでホタと一息きついた。

二十五、六日廣嶋。廿七日吉田。廿八日井原。三十日呉。三十一日切山。十一月一日門司。二日八幡。三日久留米。四日渡瀬。五日大牟田。六日柳川。各地で有難い信心の話を讀け、釋迦牟尼と日蓮上人の本當の教を、よく分る樣に說いた。「傳統を襲て、須く日蓮の信仰に復れ」と云ふ講題である。確かに反響はあつた、信仰誤に全く飢えて居た地方もあり、徹底した感激を與へた逸もあつた樣だ。各地の狀況は略して是非御紹介したき事は、大牟田市の松原町に於て、出海後義師の努力により、信徒原武儀市氏より敷地其他の寄進をうけて、新に顯本法華宗の一寺院を創立する運びになつた事と、呉の軍港で、各宗中一番古く創立せられて、面も各宗の教會は凡て立派に成立して居るのに、獨り振はない顯本の教會所……或は差押をされたり、賣買されたりして居つたのが、田中宣正師の努力と、信徒眞鍋龜吉、加賀セイ兩氏の大決心とにより、いよ〳〵復興の方策遂に成りし事を、

それから門司で聽かされた信仰美談がある七月西下の折、門司の信徒の宅で一席の講題を開いた。その折來合せた題目を唱ふる迷信の人達に、少々痛い御灸を進呈した所が、後で迷信の人達は大騒ぎを始めて、遂には極端なる方法を講んで、宿をつとめた信者をいぢめ出した。宿をつとめた人は、先年來道の爲に悪したのが原因をなして、家政少しく振はす、迷信の人達から商資の資本を借りて居つたのだが、況ふべき題目を唱ふる迷信の徒は、若し將來純正日蓮主義の信を翻くならば凡ての資本を奉回して、破産する迄苦しめんと迫つた。

正しい信仰の家には、大正の聖代に到底想像出來ぬ樣な悲劇が續いた、(詳細は記述を差控るが)遂に強盛な信仰を守持して居たその家の妻君は、家の爲め夫の爲めに、大切な信仰を捨てればならぬハメに立ち至つて、さう〳〵、之を日に呼ぶ迄に至つた。そして夫も泣き、妻も泣き、遂も泣いたのであつたが、捨つると呼ばれた尊い信仰は、悲劇のキャメロフに達してやはり捨てられなかつた、私は色々尊い話を聞かされたのだつたが、今は記述を差控へればならぬ事情があるから、後は諸君の想像に任せる。兎に角門司では今度も意義深き教建の開かれし事と、及び將來キット顯本法華の道場が何等かの形で生れ出る事を茲に讓報して置く。(國友日斌記)

立正結社東海支部大法要

立正結社東海支部では、本部から井村信正の出張を得て、支部長各聯合分會長崗席の上左記日程で、結社員の祖先の追福法要と、及び國力振興講演會を擧行した。

十月十三日鳴橋妙顯寺。同十六日名古屋盛山寺。同十七日白須賀妙泰寺。同十八日三嶋本妙寺。

各地共多數の參詣者があり、盛況であつた。

法華經普及會校訂

菊版半裁五百頁

眞讀 法華經 并開結 振かな付

法華經を唱誦することは、其の音便を記憶するすら却々至難の事である、それを誰にも讀み易く、讀誦し易からしむべく嚴密なる校訂を加へ正確なる振假名を附したのが本書である。本文振假名共新鑄の活字を用ひ印刷の鮮明なる又本書の誇りたり。

上製 布表裝 天金押 正價壹圓八拾錢
特製 鞣皮裝 三方金 送料各拾貳錢 正價貳圓五拾錢

凡例の一二

一、諸經典中、その讀誦せらるる事の多き、蓋し法華經の右に出づる者はあらじ。之本經の印行殊に盛なる所以なりとす。
一、古來本經讀誦の稽古は、一年二年、乃至五年の歳月を要したる者なり。然るに今や印刷の業盛にして假名附本の刊行漸く多きを加へ、初心者は之に賴りて容易に習得するに至れり。
一、假名附本によりて習得するは、事甚だ至便なる代りに、誤讀亦た尠からず、之れ既刊假名附本の注意至らざるの致す所か。
一、本會茲に見る所あり。現時最も流布の廣き項妙寺版に、假名附本の權威たる目相本の假字遣に訂正を加へて之に附し以て誤讀なきを期したり。
(本文四號活字、振かな七號活字、印刷鮮明)

法及華會經編輯普

訓譯縮刷	法華經並開結	法華經並開結
正價	上製壹圓貳拾錢 特製貳圓	上製壹圓貳拾錢 特製貳圓
送料	各拾貳錢	各拾貳錢

發行所 京都市東洞院通三條上ル 振替大阪一三〇六五番 平樂寺書店

里見岸雄先生著

最新刊

法華經の研究

一名法華經の文化學的研究

（菊判大冊七百三十頁）

布表裝天金頗美
正價金六圓
小包料金十八錢

著者序して曰く

一、法華經は、全佛教の最高教義を說ける經典にして又、佛陀唯一の本懷經として、その法傳の遠且つ廣、殆んど類比なき見出し難い。支那に於ても印度に於ても非常な勢で民衆の生活の中へ取り入れられたのである。殊に我邦に於ては古來朝野上下に盛に行はれ、國民生活の上に此經に對する研究註疏は古來實に幾百千、枚擧に遑あらざる處である。支那に於ては、天台大師の三大部を筆頭に幾多深遠なる註疏類は、研究書が發表せられ、日本に於ても然りなるもの。然し乍ら、是等古來の者名なる註釋書に更に註釋書を要する專門學舞

二、到底一般人士の伴侶とは成り難いうらみがある。

三、乃ち現代に於ても、農分平易に書いた講義も無いではないが、その講述の方法從來式なるか、或は、其長所を捨て、或は、專門的なるかの範圍を出でないものがある。

四、從つて一經の要領を捕捉する困難である。

五、從つて一經の要領を捕捉する困難である。

六、而して本書は、法華經註疏の書として、全く從來にない新しい方法の試みである。

日蓮聖人の義を依據とした。その理由は本文の中に叙べてある通りである。以下略す。

大王經の面目は字句の註釋を以て傳ふべからず感想文を以て述ぶべからず部分的研究を以て完からず、當に開結三部の組織的學術的研究を加へて始めて躍如たり、思想混亂內外歸趣に迷ふの時、純學術的知見の上に信仰の光を添へたる研究書を提供するを得たるは啻に出版者の誇のみならず、亦是れ學界の榮譽たるを疑はず

發行所　京都市東山區三條通院町　振替大阪一三一〇五六番　平樂寺書店

廣告

日蓮宗法衣專門

諸種の準備が整ひましたから御注文品に就ては懇切叮重に而も廉價て勉强いたし多年の御愛顧に酬るたう存じますどうぞ御用命を願ひます

東京市赤坂區一ッ木町八十六番地
柏屋　中山喜太郎
（市電）豐川稻荷前

社寺建築設計監督及臺灣檜材の安價提供

當所は社寺建築改善の目的を以て臺灣總督府及內務、文部兩省の了解の下に臺灣檜材の安價提供及工事の設計又は監督の御依賴に應じ可申候間工事の大小に拘らず左記御便宜の個所へ御相談被下度候

追て設計規程並に目安表等御入用の向は御申越次第呈上仕候

東京市麴町區有樂町三丁目三番地
社寺工務所
（電話銀座四〇八八番）

神奈川縣鶴見町芦穗崎
社寺工務所鶴見支所

福岡市外箱崎町
社寺工務所福岡支所
（電話二二三〇番）

大阪市西區市岡町七十九番地
社寺工務所大阪支所
（電話西三二二四番）

明治三十七年二月二十四日第三種郵便物認可
大正十三年十二月一日發行（毎月一回一日發行）第三百五十七號

本多日生猊下施本用著書一覽

○法華經自我偈講義　拾部　特價　金貳拾錢　金壹圓（送料共）

○法華經要文（實切れ）　壹製　金參拾錢　上製　金五拾錢

○教育勅語と思想問題　拾部　特價　金貳拾錢　金壹圓（送料共）

○うゐの奥山今日こえて　拾部　特價　金貳拾錢　金壹圓廿錢（送料共）

佐藤海軍中將著

○此の際に於る吾人の覺悟　拾貳部　特價　金拾貳錢　金壹圓（送料共）

以上各送料一部金貳錢

右講讀希望者は左記へ申込んで下さい

名古屋市東區田代町城山

統一編輯局

國電話東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

統一定價		
一冊	金貳拾錢	送料五厘
半ヶ年	金壹圓貳拾錢	送料共前金之事
一ヶ年	金貳圓貳拾錢	送料共

統一廣告料		
表紙一頁	金貳拾圓	前金之事
一頁	金拾五圓	
半頁	金九圓	
四分一頁	金五圓	

社告

年賀廣告を取扱ひます

大正四年一月一日發行の統一誌上に我徒同志の賀詞を連載して已人賀狀の贈答を省略してはいかゞですか

特に本誌を御利用相成る事を御勸めいたします

申込期日　十二月十五日限り

申込所　名古屋市東區田代町　統一編輯局
東京府荏原郡品川町眞了院　大森日榮

料金　五號活字三行分金五十錢他は之に準ず（料金は前納の外取扱はず）

大正十三年十一月十七日印刷納本
大正十三年十二月一日發行（第三百五十七號）
東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地

編輯兼發行人　國友日斌
印刷人　鈴木日雄

印刷所　名古屋市東區千種町字五反田五二番地　益社
東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地

發行所　統一發行所
振替東京五一〇七一番

編輯所　名古屋市東區田代町字城山七十七番地　統一編輯局
電長東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

不許複製